

配付機能、ノート機能

小学校 第4学年 図画工作

「ほってすって見つけて」

- (1) ねらい 彫った線の太さや形、その組み合わせからイメージを広げて、表したいことをどのように表すか考えることができる。
- (2) 評価規準 感じたことや表したいことを見つけ、線の太さや形を生かしながら、どのように表すかについて考えている。(思考・判断・表現)
- (3) 学習展開 (3/8)

過程	学習活動	教師の指導・援助(留意点)
導入	<p>1 前時の学習を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 丸刀で彫った線は滑らかになった。 細い線や鋭い線を彫るときに三角刀が使いそうだ。 <p>2 課題をつくる。</p>	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師は、前時児童がつくった形から他の児童が模様を考える時に参考になりそうなものを大型提示装置で提示する。
展開	<p>ほってできた形の感じから表したいことを見付け、どのように表したいかを考えてほろう。</p> <p>3 本時の学習のめあてをタブレットに入力する。</p> <p>4 個人で追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表したい線によって使う彫刻刀を変えるといいんだな。 雨粒みたいにしたいから小丸刀を使って丸い模様を何個もつくってみよう。 雲を表すために広い面を彫りたいから平刀を使ってみよう。 <p>5 仲間と交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんの模様が～のようできれいだから彫り方を参考にしたい。 〇〇さんは、表したいことに合わせて彫刻刀を変えている。 <p>6 交流を生かして模様を彫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんみたいに表したいことに合わせて彫刻刀を変えて、彫ってみよう。 もっと、〇〇の感じが出るように、線彫りの線の細さに気を付けて彫ろう。 	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童は、ICT端末を活用して、デジタル化された「ふりかえりシート」に、導入時学習のめあてを入力し、終末には途中作品を撮影し貼り付ける。シートは題材を通して使用することで、ICT端末上に振り返りが蓄積される。 彫刻刀を使うときの注意点「彫り進む方向に手を置かない」「刀を横に向けて彫らない」「刀と版木の角度を深くしない」を確認し板書に位置付ける。
終末	<p>7 片付けをする。</p> <p>8 今日の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 木の感じを出すために、平刀や丸刀を使ってみたら、イメージ通りに彫ることができました。 雨がふっている感じを表現するために滑らかな線と鋭い線を混ぜて模様をつくることができました。 	<p>【ICT活用の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ふりかえりシート」をデジタル化することによって配付・閲覧・回収が瞬時に行える。 もしも授業時間内に振り返りができなかった児童がいた場合、授業後でも入力・提出をすることができる。 デジタル化した「ふりかえりシート」を提出させることで、児童と教師が共に同じノートを保有していることになる。児童はいつでも見返すことができ、教師は今後の指導に生かしやすくなる。

